

【ATC フィロソフィ⑤】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



ウェブサイト:

<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

大本は心

今月は AI の機械学習で気付いたことと、弊社のフィロソフィの紹介と応援メッセージをお送りします。

ユニークな生成 AI

機械学習の学びで、コンピュータ言語を使いコードを作成し実装します。その際、生成 AI にコードの書き方と解析する考え方を聞きます。そうすると彼らにとって専門分野ですので、中高校生でも分かるレベルで丁寧に教えてくれます。自分で学ぶには物凄く便利なツールです。

しかし、彼らもコードの書き方や考え方を間違えます。間違えた時の対処の考え方が、ChatGPT と Google の Gemini で異なります。ChatGPT は「対処法はこれです」と、決め打ち的に案を出してきます。上手いかなければやり直します。これに対して、Gemini は複数の対処案を

提案して来ます。私は Gemini の方が好きです。何故なら複数の考え方が分かるからです。

情報のエントロピー

更に面白いのが、機械学習で情報の不確かさをエントロピーと定義して扱うことです。その概念の一部は熱力学で扱うエネルギーの乱雑さを表現するエントロピーと同じです。このことに気付いたら眠れなくなりました。哲学で言う心とエネルギーの話になるでしょうね。

弊社のフィロソフィです。

この世界は心に導かれている

天地宇宙の摂理である因果応報の法則に則って、お釈迦様は心について次のように表現しておられます。

『この世界は心に導かれ心に引きずられ心の支配を受けている。

迷いの心によって悩みに満ちた世間が現れる。

すべてのものは、みな心を先とし心を主とし心から成っている。

汚れた心でもものを言いまた身で行うと、苦しみがその人に従うのは、ちょうど牽く牛に車が従うようなものである。

しかし、もし善い心でもものを言い、または身で行うと、楽しみがその人に従うのは、ちょうど影が形に添うようなものである。

悪い行いをする人は、その悪の報いを受けて苦しみ、善い行いをする人は、その善の報いを受けて楽しむ。

この心が濁ると、その道は平らでなくなり、そのために倒れなければならない。

また、心が清らかであるならば、その道は平らになり安らかになる。

身と心との清らかさを楽しむものは、悪魔の網を破って仏の大地を歩むものである。

心の静かな人は安らかさを得て、ますます努めて夜も昼も心を修めるであろう。』

心が濁ると、我々が歩む人生は平らでなくなって、そのために我々は倒れてしまうであろう。一方、心が清らかであれば、人生という道は平らになり、安らかに生きることができるよう。お釈迦様は、心というものをこのように表現しておられるわけです。

この因果応報の法則は経営にも当てはまります。心が清らかであれば、経営は安定したものとなります。「心を高める」ということは、心を善き方向に導いていく、心を美しくしていくことであり、それは人生や経営までも好転させていくものになるのです。

六波羅蜜

これは製品やサービスの話だけでなく、従業員の立ち居振る舞いに対しても言えることです。従業員の立派な振る舞いを通じて、社風にも品格が備わり、いわば利他の心（愛と誠と調和の心）を土台にした会社とならなければなりません。この六波羅蜜は、「人間として何が正しいのか、正しいことを正しいままに貫い

ていこう」という考え方のことです。

お釈迦様は、人生における究極の目的は、悟りを開くことであると言っておられます。仏教で「彼岸に至る」という言葉がありますが、我々凡人は、それをこの世の向こう側にある極楽浄土だと理解しています。しかし、実際にお釈迦様が説かれた彼岸というのは、悟りの境地のことを言います。悟りを開けば安心立命の境地に至り、そこが極楽浄土というわけです。その極楽浄土に渡る方法として、お釈迦様は「六波羅蜜」という修行をせよと説いておられます。

この六波羅蜜で最初にくる修業とは、「布施」です。お賽銭をあげることもそうですが、人を助ける行為はすべてこの布施になります。この「世のため人のために」という利他の心は、布施と同じことなのです。

2つ目は「持戒」と言っていて、戒律を守るという意味です。お釈迦様は、「人間には6つの煩惱がある」と仰っています。煩惱とは、肉体を持っているが故に出てくるもので、この煩惱のせいで人間が駄目になっていくケースはたくさんあります。

お釈迦様がおっしゃった六大煩惱をひとつひとつ挙げていきます。まずは、「貪」と呼ばれるもので、食欲、性欲、名誉欲といった、人間なら誰でも持っている欲望を指します。これらは、肉体を持っているがどうしても必要になるものですが、それが過大になってはいけません。

次は「瞋」です。怒りに任せて勝手な振る舞いをし、周囲の人に迷惑をかけてしまうような心です。

次は「痴」です。無知なあまり、しょっちゅう不平不満を漏らし、うまくいっている人を見ると面白くないと妬む、そういう卑しい心のことです。

次は「慢」です。謙虚さを忘れ、傲慢になっていく心のことです。

次は「疑」です。読んで字のごとく、疑い深い心のことです。

最後は「見」です。物事をすべて邪に見る、悪いほうに解釈をする心のことです。

この「貪、瞋、痴、慢、疑、見」を六大煩惱とし、それらを抑えなさいとお釈迦様は説かれました。つまり、これが持戒です。

3つ目は「精進」です。これは一生懸命に働くとい

うことです。自分達の目的に向かって、必死に精魂を込めて努力をすることです。それが精進なのです。禅宗のお坊さんは、悟りを開くためにたいへん厳しい修行をしておられます。農作業をするにしても、掃除をするにしても、座禅を組むにしても、必死に取り組んでおられる、それがすなわち精進です。

4つ目は「忍辱」です。これは「堪え忍ぶ」という意味です。この不況を必死に歯を食いしばって堪え忍んでいきますが、お釈迦様はそれも修行のひとつだと言っておられるわけです。

5つ目は「禪定」です。座禅を組むということですが、必ずしも「座禅を組まなければならない」ということではなく、せめて1日に1回、心を静める時間を持ちなさいということだと思います。1日1回は心を静め、頭を冷やすことで、心身ともに安定した状態になります。禪定とは、そういう意味だと考えています。

今言った5つのことを心がけていると、やがて6つ目の「智慧」に至ります。森羅万象を支配している宇宙の根本原理を知る、つまり悟りに至るわけです。

※2024年06月号に続きます。

応援メッセージです。

良心は共鳴する

良心は深いところで繋がっています。赤ちゃんが笑うと、誰もが笑ってしまう。我が子でなくとも、思わず笑みがこぼれます。誰もが持つ良心に響いたからです。

誰かが、誰かを助けたりすると、心がほっとします。不良っぽい若者が、電車で老婆に席を譲ると、居合わせた多くの人の心がほっと安堵します。誰もが良心を持っている証です。

世界の遠くの国々で、悲惨な戦争で市民が巻き込まれ亡くなるのを見ると、心が痛みます。何とか戦争が無くなり、悲惨な状況でなくなることを願います。世界中の多くの人の願いなのに、戦争は無くならないのです。人類の愚かさを受け入れるしかないのか……

いや、そんなことは無い、人類はきっと、長い年月を掛けて、戦争のない世界を築き上げるでしょう。気の遠くなるような年月が掛かるかもしれないが、きっとやり遂げると思います。

そう信じて、良心を大切

に育てていく知恵を学ぶ必要があります。

私達の素晴らしい大切な使命を、知恵を駆使してどんなに時間が掛かっても、やり遂げることが大切です。

豊原 信